



念じられ 照らされて

子どもは大人になるけど 大人は何になるんですか

帰雲真智

成人の日が近づくと思
い出す少年の問い。あな
たなら何と答えますか。
老人？ 病人？ それと
も…。

成人すると大人と言
うが、そもそも成人とは？
成仏は「仏と成る」こと。
ならば成人は「人と成る」
ことと言えよう。「人と
生まれたのだからすでに
人である」。果たしてそ
う言い切れるであろうか。
東京大学名誉教授の養
老孟司さんいわく「遺伝
子の98%が同じチンパン
ジーと人間は、3歳頃ま
ではどんな能力も人間が
劣っているが、5歳位ま
でに人間の能力は急激に
伸び、チンパンジーを凌
駕する。認知科学者がそ

の変化を調べるため、3
歳児と5歳児の集団にそ
れぞれ実験をした。部
屋に箱を2つ置き、お
姉さんがやってきてA
の箱に人形を入れて出て
いく。後から別の中年女
性が出て、Aの箱の人形
を取り出し、Bの箱に入
れて出ていく。再びお姉
さんが人形を取り出しに
戻ってくる。さて、お姉
さんはどちらの箱を開け
るかな？ と子どもに尋
ねると、3歳児はBの箱
と答える。これは自己中
心的で、自らの立場・視
点からしか物事を見るこ
とができないということ。
ところが5歳児は、お姉
さんは人形がBの箱に入
れられたのを知らないは

でいたことを思い出す。
「こんな痛みが四六時
中
続いていたのなら、父も
さぞつらかっただろう」
父の生前中に、その痛
みや苦しみに思いを寄せ
ることはなかった。それ
どころか、痛み止めと称
して飲む酒を取り上げ、
「アルコール依存症を治
すため、父のため」と自
分の行為は正しいと信じ
て疑わなかった。しかし
父のためどころか「酔っ
つて絡まれるのが嫌。転ん
で怪我されたら迷惑」と
いう自分のためでしかな
かったことを、はからず
も手のしびれを縁として
気づかされ、胸が痛んだ。
「無慙愧は名づけて人と
せず。名づけて畜生とす」
『涅槃経』。相手の立場
に立つて見えてくるのは
相手の気持ちではなく、
その気持ちを思いやるこ
とのできない自分の姿な
のではないか。その愚か
な身を痛み恥じる「慙
愧」の心が起る時、人
が人と成るのである。
私の正体を映し出す智
慧、私に慙愧の念を呼び
起こす慈悲、そのはたら
きと願いが南無阿弥陀仏
の一言となって届けられ
ている。人であることを
見失うわれらのために。
念仏申し、人と成り続
ける道を歩みませんか？



＜略歴＞
1967年、高山市生
まれ。大谷大学文
学部真宗学科卒。
東京教務所、名古
屋教務所勤務を
経て現在、岐阜高
山教区高山2組還
來寺住職。

他人の立場に立つて考
えることは人間特有の能
力だということだ。「さあ
皆さん、相手の立場に立
つて思いやる人に成りま
しょう」。そう言いたい
ところであるが、悲しいか
な前述の「自己中心的で、
自らの立場・視点からし
か物事を見ることのでき
ない」という「我執」か
ら逃れられないのもまた、
人間の現実である。
父を亡くして四年ほど
たった頃、右腕にひどい
しびれと鈍痛が襲い、時
には眠りを妨げることさ
えあった。右腕をさすり
ながら、ふと、亡くなる
前の父も十数年間、右腕
のしびれと痛みに苦しん

新春の ご挨拶

高山別院輪番
三三島多聞

悲願新年

新年あけましておめでと
うございます。本年もよろしく
お願いいたします。

ご坊さまの梵鐘は朝六時に
鳴る。梵鐘を聞くたびに、遠
い記憶がよみがえる。四十年
ほど前に、当紙に牧野英一博
士（高山出身の著名な憲法学
者）の歌を載せたことがある。
明六の
鐘がご坊ゆわがまちの
家々に鳴る
我が家にも鳴る
（ご坊ゆわご坊さまからの意）
夏に聞く梵鐘はさわやかな
日覚めになるが、冬に聞く
梵鐘は床を離れ難い。寢床の

中で、しばしぬくもりを味わ
う。この「ぬくもり」のお陰
で眠っておられたんだと思
う。身にとつても、心にとつ
ても「ぬくもり」がなければ
この身心は地獄の沙汰となる。
哲学者の西田幾太郎氏は、
わが心深き底あり
喜びも憂いの波も
とどかじと思

人間の深い悲しみは、弥陀
の悲願の「ぬくもり」となっ
て、人を本当に人間らしくし
てくれるのだと知った。この
悲願を体感的に中村久子さん
は言葉にしている。
業の深さが、胸のどん底に
沁みてこそ、初めて仏のお慈
悲が分らせていただけ
です。業深き身であればこ
そ、真実、お念仏が申させて
いただけるのです。（業深き
身：自分ではどうしてみよう
もない、この身心のありよう）
コロナ禍の中、今はオミク
ロン株で心配の絶え間がない。
人の生命がかかっている。ワ
クチン接種したからといって
油断はできない。だからこ
そ、根本的に身心を活かして
いる起点を学ばねばと思
う次第。心の奥底から、如来と自
分の深く出会うひびきの、
いのちの梵鐘を聞いてい
ける新年を迎えたい。題して
「悲願新年」としました。

清見のお寺でこども会 ほとけの子 誕生！



12月12日（日）、飛騨御坊真宗教化センター
青少幼年部会の事業の一環として、清見組
了徳寺で組合同の子ども会が開催されました。
そこで子どもとご家族を対象とした帰敬式
が行われ3人の子どもの保護者、あわせて
5名の方が受式されました。

当日、会場となった了徳寺には多くの子
どもたちが集い、皆に見守られながら、厳
かなながらも賑々しく帰敬式が進められました。

受式者には親子孫の三世代で受けられた
方々もありました。「おかみそり」を受けた
子どもたちは、「とても緊張した」といいな
がらも、住職からの手紙と共に受け取った
法名を喜んでいました。

これからも飛騨にどどんほとけの子ど
もが誕生することが願われます。

仏教×グリーンケア ⑱

尾角 光美

「グリーンケアのつどい」とは

先日、2007年より東京の世田谷で「グリーンケアのつどい」を続けてこられた酒井義一師と、ある大谷派の研修会でご一緒しました。これまで幾度となく、私たちのグリーンケア講座の講師も務めてくださり、宗派を超えて多くの僧侶たちに実践への勇気とエールをくださっているお方です。「なぜグリーンケアのつどいをはじめたのか」。この問いに対し、酒井先生は常に「何もやってこなかった」という想いがずっとあったから」とお答えになります。私は「とても謙虚な方だ」と思い、「そうは言っても、きっと自然にグリーンを大事にされてき

た方なんだろう」と見ていました。ただ、先日の研修会では、新たな気づきをいただきました。酒井先生が「何もしてこなかった」と言っていた本当の意味とは何なのか、見ていきたいと思えます。

その意味を尋ねるにあたって手がかりとなるのは、「お講とか同朋会ではなく、新たに『グリーンケアのつどい』と名付けて場を開くのはどんな思いがあるのか」という問いでした。酒井先生はもとも、お寺で定期的に毎月一回同朋会を開き、教えを聞き、思いをわかち合う場をつくっておられました。「私にとっては課題別の同朋会なんです。また、通常の同朋会にいらつしやらない方も足を運んでくださるんです」。そこでお聞きかえってこない、わかち合えない声、涙、姿があるのかもしれない。死別や喪失から生まれたグリーン、それは悲しみだけでなく、怒り、安堵、何も感じないこと、そうしたものを抱えて歩むプロセスを共有できるのは、前提として「いろんな人がいるであろう場所」(広く開かれた一般的な同朋会)ではなく、「もしかしたら、わたしと同じような経験をした人もいるかもしれない」と思える場なのだろうと思います。きっと酒井先生は一人おひとり、ご門徒さんと向き合うことは、グリーンケアに出会うもつと前から、ずっと真摯にしてこられたと思います。「何も」してこなかったわけではないと思います。でも、そこに込められた真意は、グリーンを抱いている人が安心して、場に身を置き、つながり、グリーンを表現できる(しないことも尊重される)ことにおいて「してこなかった」ということだったのではないかと感じました。

自身にとって大きな死別や喪失を抱えている時、「誰にもわかってももらえない」「どうせ話したところで：」と思う気持ちもあれば、一方で「誰かにこの気持ちを聞いてほしい」「聞いてほしい」という気持ちも生まれます。グリーンケアのつどいというのは、形は違えど、グリーンを抱えた者同士がつどいます。「そこでなら話せる」と思えることがあるのではないのでしょうか。私たちは100%「わかり合える」ということはないけれど、「わかりたい」と思っただけで、声を聴き、わかち合える関係性を、つどいの場を通じてもつことができるのです。わかってもらうことの難しさも知っている者同士だからこそ、でも絶望せず、少しでもわかりたいと願いを抱き、場を共にする。そこに、グリーンケアのつどいの価値の一つがあるのではないのでしょうか。酒井先生がそうした希望の種を植え続ける活動を、寺院を開き、続けてこられたことに心から敬意を表し、言葉にしたためてみました。

次号の『ひだご坊』発行は3月1日となります。

別院定例法座

午後1時から

3日 三日のご坊

- 1月 講師 窪田 純氏(圓徳寺住職)
講題 「さんざんでも”にんじん”
にくんでも”にんじん”
いちどきりの”にんじん”」
2月 講師 達 顕信氏(高山教務支所主事補)
講題 「身の事実を引き受ける」

28日 親鸞聖人ご命日法座

- 1月 講師 細川 宗徳氏(蓮乗寺住職)
講題 「かけがえのない、
たいしたことの無い私」
2月 講師 内記 洸氏(往還寺副住職)
講題 「仏さまに手を合わせて
何かイイことあるんですか?」

聖教学習会のお知らせ

講師 マイケル・コンウェイ氏
(大谷大学准教授)
日時 2月2日(水)14日(月)25日(金)
いずれも午後1時30分から
会場 別院2階 研修会(予定)
参加費 1回 500円

ひだご坊 一口法話

URL:https://hidagobo.jp/sermon/
1月1日から2月28日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

- 三島 清圓氏(西念寺前住職)
三島 多聞(別院輪番)
四衛 亮氏(不遠寺住職)
細川 宗徳氏(蓮乗寺住職)
白尾 匡氏(長圓寺住職)
江馬 雅人氏(賢誓寺住職)
白尾 公信氏(了心寺住職)
小原 正寛氏(専念寺副住職)

大谷婦人会 定例法座 1月11日(火)
講師 三島多聞 別院輪番
2月11日(金)
いずれも午後1時から

第40回 真宗公開講座

(第3回)
2月1日(火)
午後2時~(参加費500円)
講師 狐野 秀存氏(大谷専修学院 院長)
講題 「真宗の生活」
会場 高山別院

謹賀新年

旧年中は格別のご愛顧を賜りありがとうございました。本年も相変わらずよろしくお願い申し上げます。

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい

ご相談・お見積り無料!!

株式会社 奥田石材

0577-33-9601 高山市新宮町2498-1(新宮小学校前)

温度差でおくる 怖いヒートショック

寒いタイル貼の浴室をそのまま断熱リフォーム 暖かいお風呂で快適入浴

早くて安い[ユニットバスの半額程度]
今なら高山市のバリアフリー補助金
が使えます。申請のお手伝いもします。
(65歳以上の方がいる世帯、上限50万円は3月まで)

50件以上の実績(手すりも付きます)
『暖かくなった』と喜ばれています
お見積り無料
まずはお電話下さい TEL 32-2577
高山市七日町3-102

小林ベニヤ リフォーム部

慈愛・共なる灯り

高山電気工事株式会社



保険タイム

〒506-0059 高山市下林町916-1
※ひだしん西高校前支店となり
TEL 0577-35-1005

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひいたします
令和四年 元日

いつでも対応いたします 土日もOK!
090-7677-4883
お問い合わせはお気軽に

高山墓石店

高山市滝町1362



謹賀新年
笑顔いっぱい
とても心が
やすむぐ
幸せな毎に
なりますように

6日(木)より初売り
先着50名様 新春プレゼント
をご用意しています

仏壇工芸 ほりお
高山市三福寺町369-7
TEL 0577-33-6686



久寿玉 KUSUDAMA
謹賀新年
平瀬酒造店
TEL 34-0010

ドローンを
使ってもっと
便利に
農業DX×養蚕解析(いろは)認定ドローンオペレーター
高山市桐生町71503
有明株式会社リプロ
TEL 0577-33-0303

自主出版 編集・出版までお手伝い致します
山都印刷株式会社
高山市西之一色町二丁目九〇一八
TEL 0577-33-1194